

## 平成31年度 授業改善推進プラン

## 第1学年 国語科

## 1 目指す学力・目指す授業

- ①基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ②授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。
- ③目的や場面に応じて的確に書き表したり、話したりする能力の育成を目指す。

## 2 生徒の現状&lt;定期考査等からの分析&gt;

- ①春休み明けテストの正答率は、8割以上が31.8%、3割未満が15.9%であった。  
夏休み明けテストの正答率では、8割以上が39.3%、3割未満が14.0%であった。
- ②授業アンケートでは、「授業の内容をよく理解していますか」という質問に対して「はい」「どちらかといえばはい」が92.52%、「その日の授業で「何を学ぶのか」目標をもって、真剣に取り組んでいますか」という質問に対して「はい」「どちらかといえばはい」が80.38%だが、「授業の予習・復習をしていますか」という質問では「はい」「どちらかといえばはい」は64.49%であった。
- ③夏休みの課題である主張作文では原稿用紙の使い方や、自分の考えを明確に書くことが苦手であった。

## 3 生徒の学力・学習状況等の課題と対応策

- ①50点満点のうち15点未満（3割未満）の生徒の割合が下がり、上位層の生徒の割合が上がっている。  
しかし、新出音訓の漢字に比べ、新出漢字の書き取りの問題を間違える生徒が多いのが課題である。また、漢字をだいたいの形で覚え、一画足りない生徒がいる。対応策として、毎週漢字テストを行ったり、そこで間違えた漢字を復習させたりする。
- ②授業アンケートでは、授業内容を理解し、目標をもって授業に取り組んでいる生徒が大多数であることがわかった。一方で、授業の予習・復習をする習慣が身に付いている生徒が少ないことが課題として挙げられる。対応策として、授業内容の振り返りプリントや小テストなどで確認していく。
- ③原稿用紙の使い方や、内容の考え方・書き方に課題がある。対応策として、授業の単元だけで作文を取り扱うのではなく、日頃の授業でも文章を書く機会を増やしていく。

## 4 具体的な授業改善策

- ①毎週の漢字テストとその復習や、新出漢字の読み書きを授業に取り入れることで、知識（正確な漢字の読み書き、四字熟語、故事成語など）の定着を目指す。また、作文で既習漢字を使わない生徒もいるので、特に漢字の読み書きの指導に力を入れ、生徒の「書く力」の向上につなげていく。
- ②「目標—深めあい—振り返り」を授業の基盤とすることで、生徒の理解を促す。授業始めには前時の振り返りを行い、家庭学習の重要性に気付かせたい。それだけでなく、普段の授業で使用するプリントのレイアウトを工夫し、自主学習がしやすいよう配慮するとともに、定期考査前には復習プリントを作成し、家庭学習で利用できるようにする。
- ③単元ごとに、必ず初読の感想を書かせる。その際、自由記述とテーマ記述の二段落構成にさせたり、文字数を指定したりすることで、「書く力」の定着を目指す。さらに、文章を読み終えた後も同様に意見文を書かせることで授業の振り返りを行い、「書く力」を身に付けさせるとともに語彙力を高める。またそれを発表し合うことで「話す・聞く力」の向上につなげる。

## 第2学年 国語科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査や学力向上を図るための調査等からの分析>

- ・授業アンケートでは目標や授業の流れについて説明されていると感じている生徒が73.0%だったが、内容をよく理解していると答えた生徒は「はい」が24%、「どちらかといえばはい」が62%であった。
- ・文法では、中間考査で正答率が3割以下だった生徒が9.7%だったが、期末考査では17.5%であった。
- ・春休み明けテストでは9割以上の正解者が16人だったが、夏休み明けテストでは34人に増加した。
- ・点数に関して本校は64.6%と平均より7.1%低かった。国語の授業の内容がよくわかると答えた生徒は84.3%と昨年より2.3%高かった。

### 3 生徒の学力・学習状況等の課題

- ・その日の目標は把握しているが、内容の理解に課題がある。
- ・文法への理解が課題と考えられる。一年次に学習した「文節」「単語」は良くできていたが、「活用の種類」について理解が十分でない。
- ・春休み明けと夏休み明けの8割以上の正答者の人数に差があることから、そこから長期の休みでは計画的に学習できるが、短期の休みでは学習が間にあわなことが課題だと考えられる。
- ・授業がわかると答えた生徒がいる一方、点数が都平均よりも低いことから振り返り学習や家庭学習を身につける機会を設けることが課題と思われる。

### 4 具体的な授業改善策

- ・目標に沿って内容が理解できたかを確認するために授業の最後に、その日の授業内容が確認できるプリントや問題を作成する振り返りの時間を作る。
- ・文法の対応策として、まず文法に興味をもてるような授業内容や復習するためのプリント等を用意し、知識を深める。その上で、1年次の内容を復習しつつ、繰り返し2年次の内容を行うことで理解を深めさせる。
- ・日頃の授業から事前にテストの予定を確認できるように、小テストや休み明けテストが書かれたテスト計画表を作成する。
- ・その日の学習内容を家庭で復習できるような課題プリントや宿題を作成し、配布する。

## 3 学年 国語科

### 1 目指す学力・目指す授業

- ・基礎的・基本的な学力の定着を図り、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ・授業のねらいの明確化、指導内容の焦点化と流れの提示、反復学習による知識の定着化を図り、一単位時間の授業で何がわかり、何ができるようになったかを生徒自身が実感できる授業を組み立てていく。

### 2 生徒の現状<定期考査や平成31年度全国学力・学習状況調査等からの分析>

- ・春休み明けテストでは、8割以上の点を取れた生徒が全体の60%、夏休み明けテストでは66%であった。実力テストでも漢字の読み書きの問題は8割以上が正答を書いていた。読みの問題に比べ、書き取りの問題で点数を落とす生徒が多かった。
- ・実力テストでは古典を含む文章に関する問題の正答率は50%以下であった。定期考査でも中間考査に比べて古典の問題が出題された期末考査では8割以上取れた生徒が10%減少した。
- ・条件作文の問題は正答率は50%であった。夏休みの課題である主張作文では自分の考えを整理して、明確に書くことが苦手であった。
- ・全国学力・状況調査では封筒の書き方を理解して書く問題の正答率が57.4%であった。相手の名前と住所、自分の名前と住所の位置を理解することが苦手であった。

- ・書き取りの問題を間違える生徒が多いのが課題である。対応策として日頃の授業に書き取りの問題を取り入れる。
- ・古典への理解が課題と考えられる。対応策として古典にまず興味が持てるような授業内容や復習するためのプリント等を用意する。
- ・作文の書き方や考え方に課題がある。対応策として授業の単元で作文を扱うだけでなく、日頃の授業でも文章を書く機会を増やす。
- ・封筒の書き方を学んだり、書く機会が少ないことが課題と考えられるので、封筒や葉書の書き方を確認する機会を定期的に設けるようにする。

### 4 具体的な授業改善策

- ・授業の最初5～10分で単元内の頻出漢字の小テストを行う。
- ・めあてをはっきりさせ、ICTや資料集を活用し、古典への興味関心を深め、古典の授業の最後に振り返りのためその時間で学習した内容を確認できる復習プリントに取り組みさせる。
- ・物語や説明文の授業の最後に、自分の意見を200字程度の文章で書かせたり、文章の特徴を説明させる作文を書かせる。また、新聞やニュースに触れる時間を作り、自分の考えを整理して書けるように指導する。
- ・書写の授業などで繰り返し封筒や葉書を書く機会を設けるようにする。また、職場体験のお礼状を書く機会を確認する。